



田植えを終えてハイポーズ！（田植え体験 若葉保育園年長児 6月22日）

あなたと議会の情報ネットワーク

あおぞら21

喫煙に対する考えは！（一般質問）	2
ファームポンドの早期建設を！	4
老朽化進むごみ処理場	5
郷土にもっと関心を！	6





Q 喫煙に対する考えは！

A 公共施設は全面禁煙に

永山 和人 議員



収穫を迎えた葉たばこ

全国一の葉たばこ生産 熊本

永山議員 喫煙者は自己責任で消費税の5%の他に約59%（24年度は約1億円の税収が見込まれている）のたばこ税を納め町の財源に協力している。

マナーを守るのは当然であるが、自治体の流れは分煙も無視し公共施設、さらには敷地内も禁煙区域に移行しつつある。

そうした中でも熊本県は全国一の葉タバコ生産地であるが、生産者の中には作ってはならない物でも作っているかのようで生産に誇りが持てないとも言われている。

今後町は、たばこの喫煙に対してどの様に考えているのか。

山本町長 22年2月25日付厚生労働省通達で今後の受動喫煙防止対策についての基本的な方向性として大多数が利用する公共施設は原則として全面禁煙すべきであると示された。

一方で全面禁煙等については当面施設の対応や利用者のニーズに応じた適切な受動喫煙防止対策を進める事となっている。

道山健康いきいき推進課長 熊本県

健康推進課の23年11月調べでの県内の庁舎の喫煙防止状況は敷地内が20%屋内60%となっている。

御船町は他の町村に比べ喫煙者に優遇している状況である。

永山議員 他の庁舎では喫煙が解るように喫煙所の表示がなされている。御船町役場は表示が無く、利用者はどこに喫煙所があるのか判らない。また、冬場の冷たい風の吹く中ガタガタ震えながら役場の玄関口やスポーツセンターの入り口で喫煙している姿をみてどう思うか。

宮崎社会教育課長 カルチャーセンターやスポーツセンターに分煙室を設置する場合、場所の選定も難しく、新たに設置する場合は改修費用も多額になる。よって現在の館内禁煙を続行したい。

山本町長 マニフェストに健康いきいき御船町を掲げている。

たばこは健康を害するものであり率先して推進は出来ない。しかし一方では愛好者もいるのも事実である。

また、22年にたばこの価格が上がったにも関わらずたばこ税は決算では8,000万円を超した。愛煙家やたばこ農家の思いも考慮し今後は健康い

きいき御船町の推進また、全国的に施設内禁煙に進んでいくが町民や利用者、喫煙者の話を参考としてガイドラインを設けて検討しなければならない。

健康が一番

永山議員 国が禁煙の方へ流れているのは理解している。現状をどう思うか。

山本町長 外でニコニコして喫煙されている。いい交流の場と思っている。苦肉の策で男子更衣室のスペースを割いて喫煙所をもうけた。

しかし、たばこを吸うなら、景色の良い所でゆっくり吸った方がいいのかなとは思う。

案内板等を作るのであれば、ここで吸ってよかったと言われるような施設がいいのではないかな。そう言う事になると受動喫煙防止対策のガイドラインの中で考える必要がある。

一方で健康、他方では愛煙家、それに生産農家。しかし、健康が一番である。



一般質問直後、素早い対応で喫煙所の表示板が取り付けられた。

Q ごみゼロ社会をめざすには

A 分別を徹底しゼロに近づける

佐藤 俊明 議員



一般質問

佐藤議員 私たちの暮らしからは様々なごみが出る。ごみは捨てればごみ、分別すれば宝と言われている。生ごみは堆肥化、紙やプラスチックはリサイクルができる。すべてのごみを分別し、再資源化して有効活用するのが理想的である。

しかし、資源化できず、大量のごみが出るのが現実であり、その処理をどうするかは大きな課題だ。

町は甲佐町と衛生施設組合を設置しごみ処理を行ってきているが、ごみ焼却場の延命化や建替えの時期にあり、どうするか決める段階にきている。

従来はごみ処理施設イコールごみ焼却場でした。しかし、ごみを焼却に頼らない方式などについて検証し、地球温暖化対策や環境保全、住民の健康づくりや町づくりを総合的に考

え、将来を見据えた、ごみ処理施設方式が必要である。

生ごみの堆肥化や紙やプラスチックの資源化などごみの分別と有効活用について考える時期にきている。

現状はどうなっているか

御船町甲佐町衛生施設組合の現状（運営コスト）はどうなっているか。

ごみの排出量は。

山本町長 1日の排出量は11.6トン。1年間の排出量は4248トン。町民一人当たりの排出量は一日に582グラム。

佐藤議員 年間の施設運営費用は。

山本町長 クリーンセンターへの負担金は約1億5400万円。町民一人当たり8470円。

佐藤議員 現在のまま運営した場合あと何年運営できるか。

山本町長 14年にダイオキシン対策で大規模改修が行われ10年経過。通常の改修をして後5年ほど。

佐藤議員 施設の建て替えを行うとしたらどの程度の費用が見込まれるか。

山本町長 現在と同規模の焼却炉を新設した場合、約16億8千万円。（交付金は1/3）

のような方式があるか。

山本町長 分別を徹底的にすることにより、ごみをゼロに近づけることができる。生ごみを分別収集し、し尿などと混ぜて堆肥化や発生したガスで発電もできる。

佐藤議員 バイオマスタウン構想に基づく、ごみゼロを目指した取り組みを行う考えはないか。



分別がされてなく残されたごみ

町全体でごみの発生抑制を進めながら、焼却ゼロ、埋め立てゼロを目指す取り組みを。

山本町長 可燃物や不燃物、資源ごみの分別収集を行ってきたが、ごみは減っていない。循環型適正処理の検討を行っている。

佐藤議員 生ごみやし尿、浄化槽汚泥、木や草などはバイオマス資源としてエネルギーや肥料などに利用することができる。

山本町長 生ごみやし尿を地域資源として循環活用するには、社会システムが必要。協働の仕組みづくりが必要。

先進地の視察などを行いながら研究を進めている。10月ごろまでに方向性を出したい。



分別されてストックヤードに集められたペットボトル

どのような方法があるか

佐藤議員 ごみゼロを目指すにはど

5月定例議会

七滝土地改良区からの陳情～採択～

ファームポンドの早期建設を！

24年度 5月議会を5月14日に開いた。条例の一部改正1件、24年度一般会計補正予算1件、陳情1件が上程されすべて全会一致で可決した。

町政に対する一般質問に2人が登壇した。(2・3ページに記事)

用水不足の解消に

5月10日、陳情について事前調査を行った。執行部から藤岡経済振興課長、耕地係藤野主幹が出席。まず、七滝土地改良区の栗永理事長から陳情の要旨、陳情の理由また、これまでの経緯について説明を求め審議を行った。

陳情の内容は、上野地区の用水不足解消のためのファームポンド建設である。上野地区の障害防止対策事業は、平成18年度より第4次対策として水路トンネルの改修とファームポンドの建設を予定して実施されてきた。しかし、水路トンネルは平成23年度で完了したものの、ファームポンド計画は近隣住民の理解が得られず候補予定地での建設断念を余儀なくされた。そこで平成23年度の通常総代会において経過報告され、現候補地での計画断念を了承し、改めて別の位置でファームポンドを建設するよう決議された。

以上を踏まえ委員より、事業主体は熊本県であるので県への陳情が妥当ではないのかファームポンドの建設については、地元への説明不足ではなかったのか。

これまでの正しい経緯を認識する必要があるのではないかと。ファームポンドの建設により稲作だけでなく、将来は畑地のかんがい用としても利

用可能となり地域農業の振興につながると思われる。早期の着工のためにも地元へは丁寧な説明を行う必要がある。別の候補地として考えている場所はあるのか。などの意見があった。

その後、今回計画を断念した建設予定地を確認して審議したいとの意見もあり、現地の視察をおこなった。

現地調査後、委員会室にて再審議をおこなった。委員より、調査費や設計費等の新たな費用負担に事業主体が負担するのではないのか。上野地区の用水不足が目的であり、あらゆる方法を検討していく必要があるのではないかなどの意見が出された。

5月14日、本会議において付託された本陳情に対し、委員会を開催し、5月10日開催の事前調査をもとに審議をおこなった。

委員会の裁決の結果、水路トンネルの改修のみでは用水不足の解消にはならずファームポンドの築造が必要であると、全会一致で採択とした。

本会議での主な質疑

井本議員 当初の建設予定地について近隣の住民の理解が得られなかった

理由は何か。

吉村産業建設常任委員長 説明不足と境界の立ち会いに応じていただけなかった。また、環境問題についても指摘があったと聞いている。

井本議員 土地改良区と町が一緒になって国・県に、提言活動を行い町に負担がかからないようにしてほしい。

田端議員 今回の事業については、100%の補助事業であるが、県が事業主体を握っているということで、県はこれまでの経緯をどのようにとらえられているのか。これまでの事業の進め方の中に、まずかったという点はなかったのか。そのようなことの確認等の協議はあったか。

吉村委員長 委員会の中ではでない。本件を採択いただければ、土地改良区と町は、県のほうにそれなりの負担を要望したいということで、要望書も提出されるかと思っている。



当初の建設予定地の確認を行った。(5月10日)

5月の議会の動き

- 7日 上益城消防組合議会
- 9日 県町村議会議長会議長研修
- 10日 産業建設常任委員会・議会改革推進特別委員会
全員協議会・広報編集常任委員会
- 13日 緑川水防演習
- 14日 議会・広報編集常任委員会・議会報告会
- 15日 議会報告会

- 16日 議会報告会
- 17日 議会報告会・広報編集常任委員会
- 18日 視察受入れ(福岡県大野市議会)
- 21日 広報編集常任委員会
- 22日 御船町甲佐町衛生施設組合議会研修～23日
- 25日 視察受入れ(合志市議会・鹿児島県垂水市議会)
- 28日 九州中央道期成会総会・議会運営委員会
- 29日 全国町村議会議長会正副議長研修～30日
商工会通常総会

◆一般職の職員の給与に関する
条例の一部改正

可決

職員の都市部の公署等への長期的な研修派遣に伴い在勤先の民間賃金、物価等を考慮して職員に地域手当を支給するための条例の一部改正。

◆24年度一般会計補正予算

可決

609万 3 千円を追加し、歳入歳出総額をそれぞれ64億26115千円とした。増額補正の主なものは、太陽光発電システム設置補助金266万 2 千円、みどりの里保育所施設整備補助金296万 8 千円であった。

主な質疑

福永議員 みどりの里保育所施設整備補助金とあるがどういったものか。

藤井福祉課長 みどりの里保育所に

定員100人に対し120人以上の申し込みがあった。町の方で調整し、他の保育園に入っていただく手続きを行った。しかし、みどりの里保育所に4月の時点で認定子ども園まで含め、3歳児が35人入所された。3歳児クラスは20人に対し1クラスの施設ということで、35人に対して施設が足りないという相談がありプレハブで施設を建てた。それに対する補助である。

福永議員 これに対する国、県の補助は何か該当するものはなかったのか。

藤井課長 今回の場合はない。国県の施設整備補助においては、老朽化の部分などについて計画的に補助金を申請することになっている。それにも審査がある。今回は、急きょ対応をしなくてははい

けない状態となった。

福永議員 他の園でも同じ事例が生じた場合対応するのか。

藤井課長 町立、私立とも保育園児については調整を行っている。今回の場合は、認定こども園ということで、人数のほうがはっきりわかっていない部分もあった。このようなことが無いようすすめていきたい。



新たに建てられたプレハブ施設

老朽化進むごみ処理場 今後の対応策を考える

御船町甲佐町衛生施設組合視察研修 組合議員 増田 安至

上益城郡内の山都町・御船町・甲佐町・嘉島町・益城町・西原村の6町村ではごみ処理問題並びにし尿処理・火葬場の課題について同様の問題を抱えている。特に御船町と甲佐町では、将来に向けた計画と対応は喫緊の課題でもある。そこで課題に取り組む方向性を示唆される宮城県の大崎地域広域行政事務組合 大崎広域東部汚染再生処理センターについて、視察研修した。期間は平成24年5月22日(火)から23日(水)で、内容は①大崎地域広域行政事務組合の概要②被災後のごみ処理と施設管理③汚染再生処理センターの処理状況・し尿と浄化槽汚泥・生ごみの再利用施設処理システムの説明である。

奥名組合長(甲佐町長)をはじめ山本副組合長(御船町長)ら、組合議員4名と監査2名、並びに双方の関係職員5名で研修に行った。広域での対応が良いのか、町単独の対応が必要なのか、町にとって最小の負担と最大の効果を期待できる施策について今後協議を行っていく予定となっている。



大崎市広域事務組合での研修

議会運営委員会 報告

委員長 田中 隆敏

5月28日に6月会議の運営について審議を行った。会議の期間を6月7日(木)～11日(月)までの5日間とし提出議案の説明を執行部から受けた。専決処分の承認及び報告が1件、規約の一部変更が2件、条例の一部変更が1件、条例の廃止が1件、財産処分、譲渡及び補正予算2件が提出されることとなった。請願はなし。陳情は机上配布とした。一般質問は4人の議員より通告があり6月11日(月)10時より行うこととした。

また、議会報告会の取りまとめを行うため全員協議会で会議録を配布し各委員会にて質問回答の確認を行い執行部の回答を求める調整をした。



落合
緒方 佑亮さん

郷土にもっと関心を！

私は、群馬県の大学で地方の政治などについて学んでいます。元々政治のことは興味がありましたが、大学の講義等で学ぶ内容は、新発見の連続でした。その中で、私は卒業論文を「議会改革」について取り上げることになりました。

調査を進めていく中で、御船町が議会改革について全国でも先進的な取り組みを行なっていることを知りました。「通年議会」「議会だよりの毎月発行」「議会の御船町議会の、周辺の地方議会とは違う新しく生まれ変わった姿に誇らしく思いました。

会の参加人数（300人以上）は把握していたので、20代、30代の若い方も少しは来られるのかな、と期待していたのですが…。

平成22年1月号のあおぞら21の「人」でも「若い人の声も必要」とありました。ですが実際の「若い人の声」は、存在すらしていませんでした。

これからは将来を担う「若い人」である私たちが、もっと郷土について関心を持つべきだと思います。議会報告会も年に1回しかありませんし、「あおぞら21」や「広報みふね」も月1回の発行ですので、まずはその時だけでも自分の住む町に目を向けて欲しいと思います。

将来、町の老若男女問わず、自分の住む町に関心を持てるような、そんな町になれたらと思います。

水越「ホテルを見る会」

水越「ホテルを見る会」が6月9日（土）に行われた。体育館では地元滝尾小学校5年生による「ソーラン節」、ひょっとこ民笑会による「ひょっとこ踊り」、地元郷土芸能の「風神太鼓」などが披露された。

太鼓の音に刺激を受け、真っ暗な中に蛍が乱舞していた。会場には大型バスで町外からもたくさんの見物客が訪れていた。



ひょっとこ踊りを披露する「ひょっとこ民笑会」

議会の予定 7月

- 2日 九州中央道沿線議会理事会幹事会
- 4日 御船地区衛生施設組合議会研修～6日
- 9日 全員協議会
- 12日 議会
- 13日 視察受入れ（鹿児島県長島町議会・熊本県菊陽町議会）

- 17日 九州中央道沿線議会総会決起集会
- 19日 視察受入れ（岩手県滝沢村議会・宮崎県都農町議会）
- 23日 県町村議会議長会議会運営委員長常任委員長研修
- 30日 全国町村議会議長会広報研修～31日

委員長 岩田 重成
委員長 山田 忍
副委員長 山田 五郎
委員 佐藤 俊明
委員 田中 隆敏
委員 永山 和人
委員 増田 安至

議会広報編集常任委員会

山田 五郎

自然を大事に守って頑張っている町民。その美しい自然を楽しむに見に来る人々。この接点がうまく繋がれば過疎化が終止するのではないかと思った。

「空気が澄んでいてとても気持ちが良い。幻想的なホテルの光を楽しみにしている。」と話された。

自然を大事に守って頑張っている町民。その美しい自然を楽しむに見に来る人々。この接点がうまく繋がれば過疎化が終止するのではないかと思った。

梅雨に入りジメジメした日が続く御船川では鮎釣り人を目にする季節になった。昨年は大雨で中止になった水越地区の「ホテルを見る会」に来賓として参加した。会場は元水越小学校体育館で行われたが、立ち見ができるほど満席であった。

熊本市内から毎年見に来ていますという家族に会った。子供は「オオクワガタ」を手にとり父から買って貰っている。その横で串で刺したヤマメの塩焼きを頬張る家族。

編集後記